

授業科目	疾病・回復論 I (薬理学)	実務経験	開講時期	単位数	授業形態	時間数
		◎	1 年次後期	1	講義	30 時間
到達目標	1. 薬物療法の概念を知る。 2. 薬物の薬理作用の種類を理解する。 3. 薬物の作用機序を理解する。 4. 薬物の人体への影響を理解する。 5. 薬物の取り扱いを理解する。 6. 薬物の管理方法を理解する。 7. 麻酔の原理と管理について理解できる。					講師
						薬剤師
授業計画						
1 回	薬理学の概念 薬理作用の基本形式 薬の投与経路					
2 回	薬物動態 薬効に影響を与える因子 薬物と法律					
3 回	抗感染症薬 抗癌剤、免疫抑制剤					
4 回	漢方薬 消毒薬 造影剤					
5 回	中枢神経系に作用する薬物					
6 回	抗アレルギー薬・抗炎症薬					
7 回	循環器系・消化器・生殖器系に作用する薬物					
8 回	物質代謝に作用する薬物（ホルモン、ホルモン拮抗薬、治療薬としてのビタミン）					
9 回	皮膚科用剤、眼科用剤					
10 回	救急の際に使用される薬物					
11 回	輸液製剤					
12 回	高齢者における薬物療法					
13 回	小児における薬物療法					
14 回	妊婦・授乳時における薬物療法					
15 回	まとめ					
評価方法	修了試験 選択肢又は論述問題による筆記試験（100%）					
教科書	系統看護学講座 専門基礎分野 薬理学 医学書院 今日の治療薬 南江堂					
備考	予習においてはテキスト、関連書籍の該当ページを熟読するとともに、理解できない箇所を明確にする。復習においてはテキスト・講義資料・参考文献などを用いて、学習した内容を整理し、理解を深める。					